

第4章 地域別の状況

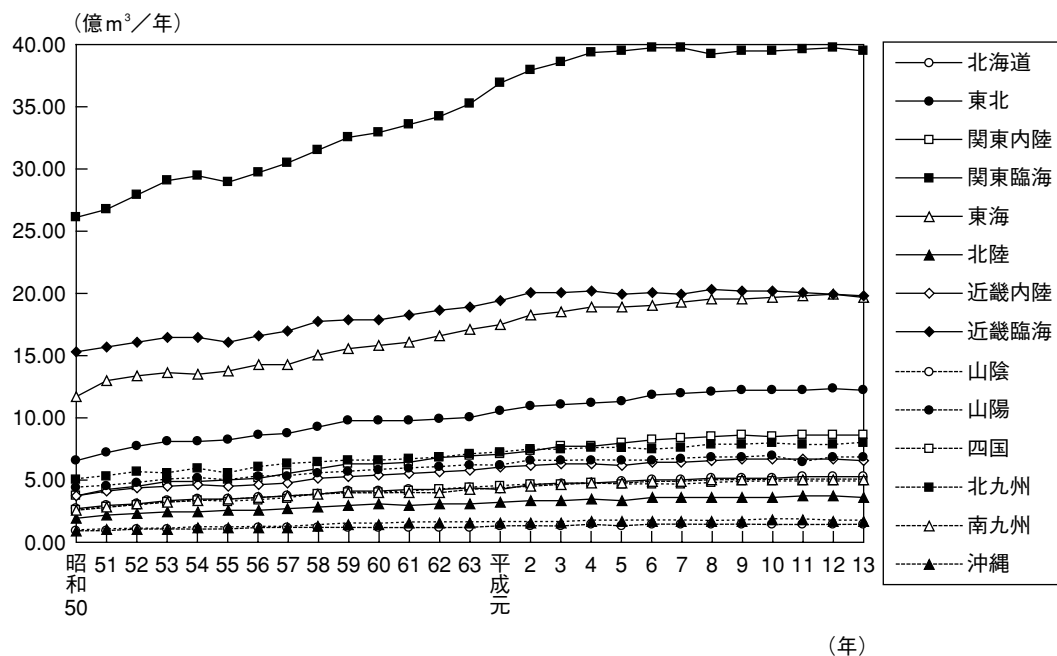
1 用途別の現況

用途別、地域別の水使用状況について説明する（図3-4-2，図4-2-1～図4-2-2，表4-2-1～表4-2-3，参考4-1-1～4-1-4）。なお，特段のことわりのない限り，数値は平成13年の値である。

（1）生活用水

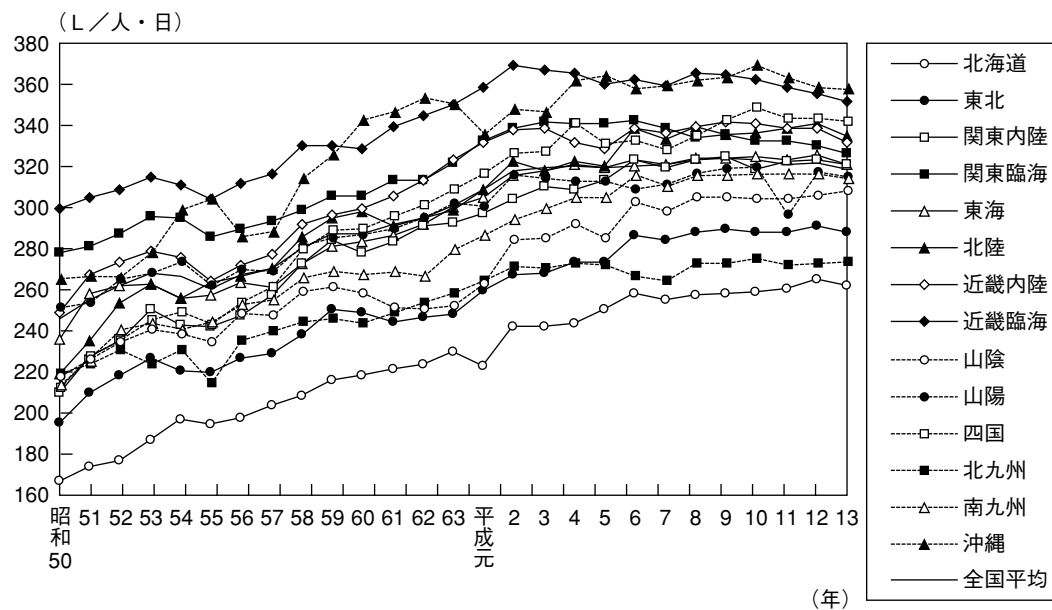
地域別の生活用水使用量の推移をみると，近年は横ばい傾向にある（図4-1-1，参考4-1-2）。

一人一日平均使用量も近年は横ばい傾向で推移している。一人一日平均使用量は，気温の高い地域ほど大きい傾向にあるが，北九州（273ℓ／人・日）が最低の北海道（262ℓ／人・日）について小さいことが注目される（図4-1-2，参考4-1-3）。



- （注）1. 国土交通省水資源部調べ
2. 地域区分については，用語の解説を参照。

図4-1-1 生活用水使用量の推移（地域別）（有効水量ベース）



(注) 1. 国土交通省水資源部調べ
2. 地域区分については、用語の解説を参照。

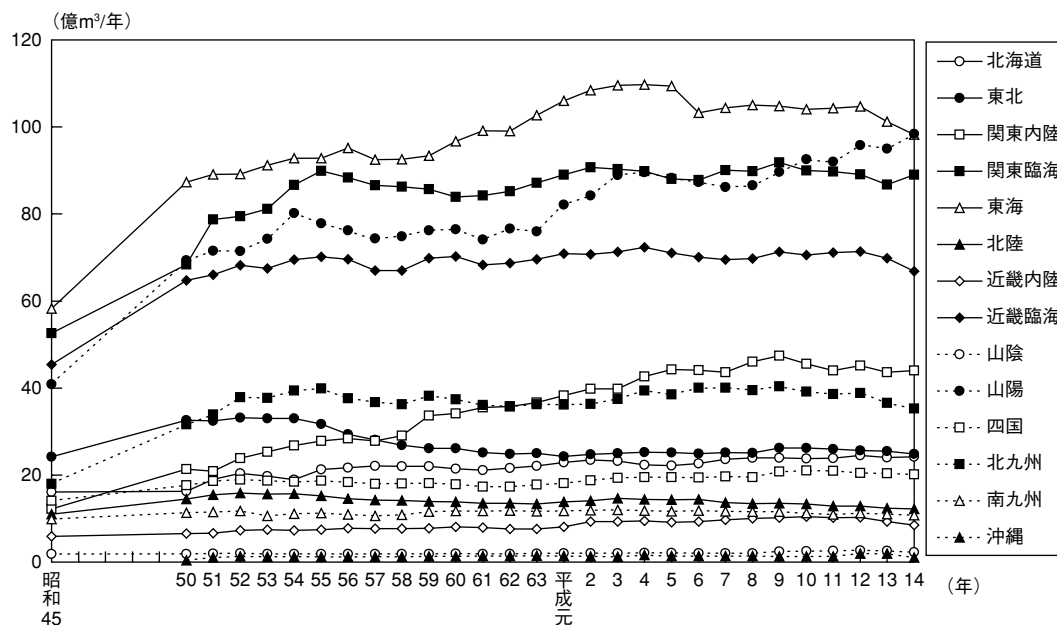
図 4-1-2 生活用水の一人一日平均使用量の推移（地域別）（有効水量ベース）

（２）工業用水

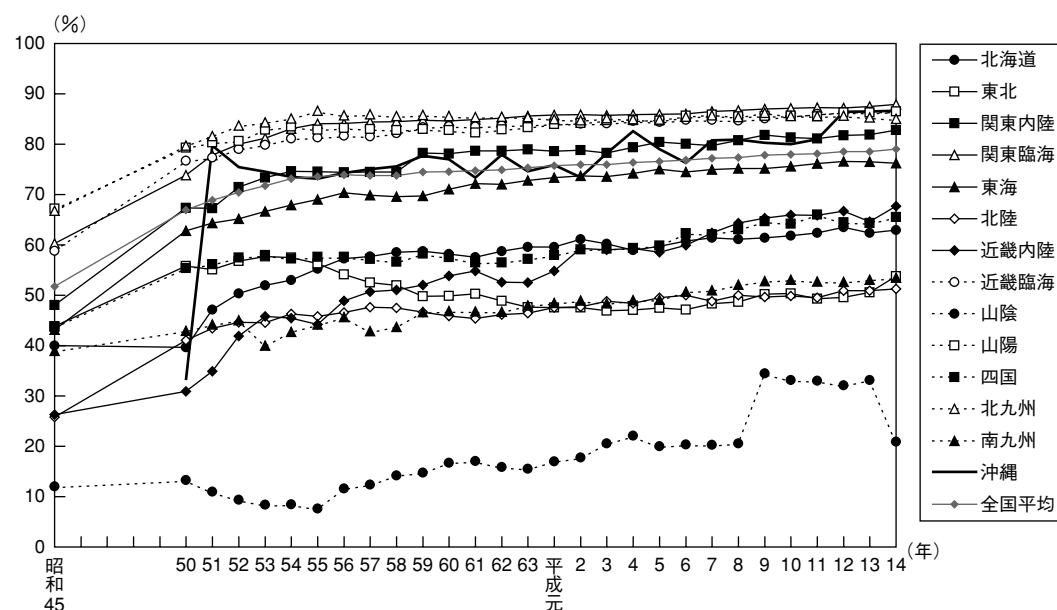
淡水使用量は、近年山陽では増加しているが、その他の地域はおおむね横ばい傾向にある（図4-1-3）。

回収率は、関東臨海、近畿臨海、山陽及び北九州において高く、80%を超える水準で推移している。その他の地域でもおおむね漸増傾向で推移している（図4-1-4）。

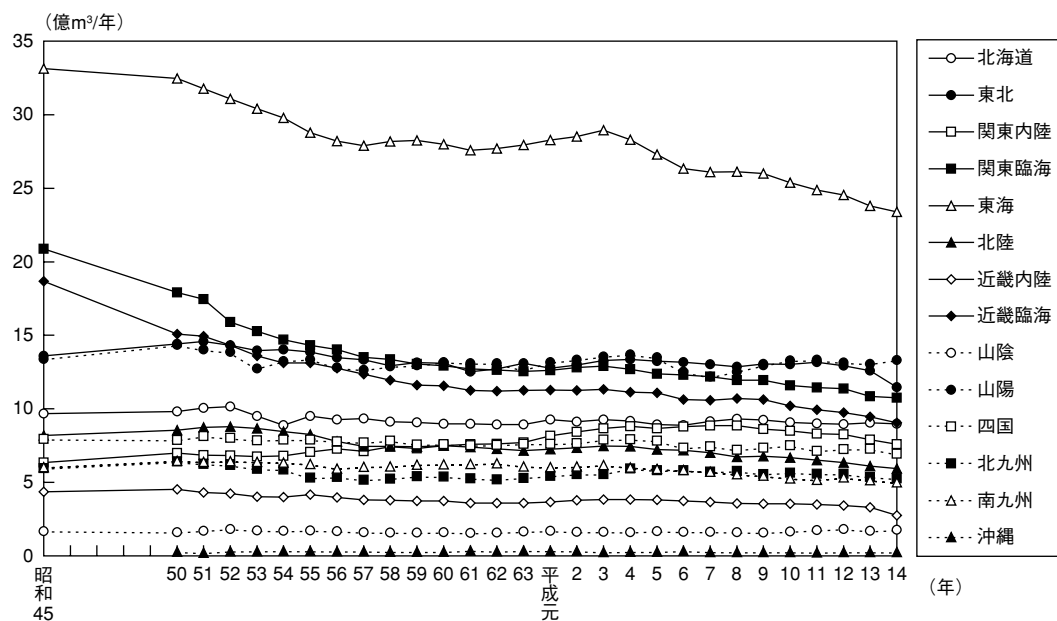
淡水補給量は、最も多い東海で減少傾向にあるほか、その他の地域でも全般に減少又は横ばい傾向にある（図4-1-5）。



(注) 1. 経済産業省「工業統計表」による。
2. 従業者30人以上の事業所についての数値である。
3. 地域区分については、用語の解説を参照。

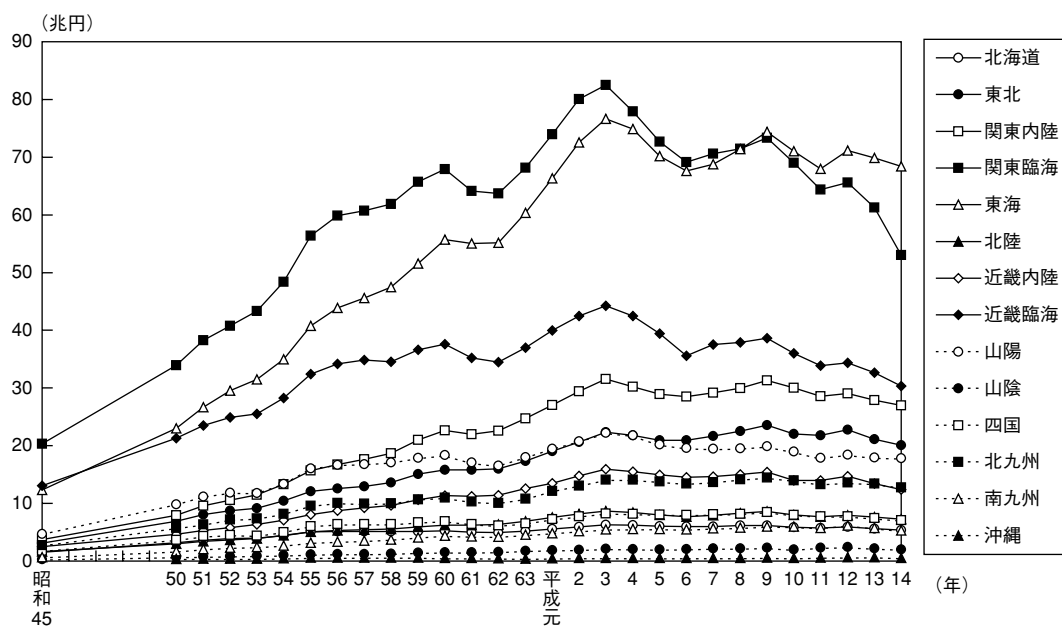


(注) 1. 経済産業省「工業統計表」による。
2. 従業者30人以上の事業所についての数値である。
3. 地域区分については、用語の解説を参照。



- (注) 1. 経済産業省「工業統計表」による。
2. 従業者30人以上の事業所についての数値である。
3. 地域区分については、用語の解説を参照。

図 4 - 1 - 5 地域別淡水補給量の推移



- (注) 1. 経済産業省「工業統計表」による。
2. 従業者4人以上の事業所についての数値である。
3. 地域区分については、用語の解説を参照。

図 4 - 1 - 6 地域別工業出荷額（名目値）の推移

（３）農業用水

使用量は、全国的にはほぼ横ばい傾向で推移している（参考４-１-４）。

２ 地域別の現況

（１）北海道

一人当たり水資源賦存量（平水年。以下同じ。）は、全国平均の約３倍である（参考１-２-２）。都市用水の水源は河川水への依存率が91.6%と全国平均に比べて高い（図３-２-２）。

ア 生活用水

水道普及率は96.6%であり全国平均とほぼ同じである（図３-４-２）。一人一日平均使用量（有効水量ベース。以下同じ。）は262ℓ／人・日と全国で最も小さい（参考４-１-３）。

イ 工業用水

淡水補給量（従業者数４人以上の事業所。取水量ベース。以下同じ。）は、パルプ・紙・紙加工品製造業，食料品製造業の比率が高い。

ウ 農業用水

広大な土地と恵まれた自然条件を生かした畑作及び酪農の盛んな地域である。畑地の割合が約80%と高い（図４-２-２）。また、畑地の半分以上を牧草地が占め、畜産用水の需要が多くなっている。

（２）東北

一人当たり水資源賦存量は、全国平均の約２倍である。都市用水の水源は、河川水への依存率が全国平均に比べやや高い。また、消雪パイプ・流雪溝の使用水量が全国の約65%と最も多い（参考２-５-１, ２）。

ア 生活用水

水道普及率は94.7%であり全国平均と比較して低く、一人一日平均使用量も288ℓ／人・日と全国平均に比べ小さい。

イ 工業用水

淡水補給量は、パルプ・紙・紙加工品製造業，化学工業の比率が高い。

ウ 農業用水

水田の割合が約74%と高く、全国の水田の約31%を占めており、我が国の主要な稲作地帯となっている。

（３）関東

一人当たり水資源賦存量は全国平均の３割弱であり、内陸ブロックでは全国平均とほぼ同程度であるが、臨海ブロックでは全国平均の約１割しかない。都市用水の水源は、内陸ブロックでは地下水への依存率が43.4%と高いが、臨海ブロックでは河川水への依存率が84.7%と高い。

ア 生活用水

内陸ブロックでは、自家用井戸への依存などにより水道普及率は92.9%とかなり低い。一人一日平均使用量は321ℓ／人・日である。一方、臨海ブロックでは、人口規模が大きく東京都をはじめとして都市活動も活発であることから、水道普及率は98.6%と高水準にある。一人一日平均使用量は326ℓ／人・日である。

イ 工業用水

淡水補給量は、内陸ブロック、臨海ブロックとも化学工業、食料品製造業の比率が高い。

ウ 農業用水

北関東は、一戸当たり経営耕地面積が比較的大きい土地利用型農業のほか、酪農、肉用牛等畜産が盛んである。一方、南関東は、首都圏という大消費地を持つことから、園芸、畜産等の産地が形成されるなど多様な農業が展開され、水利用も多岐にわたっている。

（４）東海

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約１.2倍である。都市用水の水源は、地下水への依存率が39.6%と全国平均に比べて高い。

ア 生活用水

水道普及率は98.6%と高水準にあり、一人一日平均使用量は321ℓ／人・日と全国平均とほぼ同じである。

イ 工業用水

淡水補給量は、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業の比率が高い。

ウ 農業用水

都市近郊型農業の盛んな地域で、畑地かんがい施設の整備率が高く、全国に先駆けて畑地かんがいによる高生産性農業が展開されている。

（５）北陸

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約２倍である。都市用水の水源は、地下水への依存率が54.2%と全国で最も高い。

ア 生活用水

内陸部では地下水が豊富であり、自家用井戸等への依存も多いことなどから、水道普及率は95.2%と全国平均に比べてやや低い。一人一日平均使用量は335ℓ／人・日と、全国平均と比べてやや大きい。

イ 工業用水

淡水補給量は、化学工業、繊維工業の比率が高い。

ウ 農業用水

耕地面積に占める水田の割合が約91%と高い。

（６）近畿

一人当たり水資源賦存量は全国平均の５割弱であり、内陸ブロックでは全国平均の約７割であるが、臨海ブロックでは全国平均の約３割しかない。都市用水の水源は、河川水への依存率が、内陸ブロックでは69.9%と全国平均以下であるが、臨海ブロックでは83.4%と高い。

ア 生活用水

内陸ブロックでは、水道普及率が99.0%と高水準にある。また、ベッドタウン化等によって人口が伸び、一人一日平均使用量は332ℓ／人・日と全国平均よりも大きい。臨海ブロックでは、水道普及率が99.6%と沖縄に次いで高く、一人一日平均使用量は352ℓ／人・日とこれも沖縄に次いで大きい。

イ 工業用水

淡水補給量は、内陸ブロックでは化学工業、プラスチック製品製造業の比率が高く、臨海ブロックでは鉄鋼業、化学工業の比率が高い。

ウ 農業用水

耕地面積に占める水田の割合が約78%となっている。

（７）中国

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約1.3倍であり、山陰ブロックでは全国平均の約2.7倍であるが、山陽ブロックでは全国平均とほぼ同程度である。都市用水の水源は、山陰ブロック

では地下水への依存率が36.8%と高いが、山陽ブロックでは河川水への依存率が87.3%と高い。

ア 生活用水

水道普及率は山陰ブロックで95.3%，山陽ブロックで93.5%であり，全国平均に比べてわずかに低い水準にある。一人一日平均使用量は，山陰ブロックで308ℓ／人・日，山陽ブロックは315ℓ／人・日であり，全国平均と比べてやや小さい。

イ 工業用水

淡水補給量は，山陰ブロックではパルプ・紙・紙加工品製造業，化学工業の比率が高く，山陽ブロックでは化学工業，鉄鋼業の比率が高い。

ウ 農業用水

耕地面積に占める水田の比率が約77%と高い。水田の整備済面積割合は全国平均に比べてやや低い，畑地かんがい施設等の水利施設の整備は進展している。

（８）四国

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約２倍である。都市用水の水源は，地下水への依存率が33.4%と全国平均に比べて高い。

ア 生活用水

水道普及率は93.6%であり全国平均より低いが，一人一日平均使用量は342ℓ／人・日で全国平均と比べて大きい。

イ 工業用水

淡水補給量は，パルプ・紙・紙加工品製造業，化学工業の比率が高い。

ウ 農業用水

畑地の中でも樹園地の割合が高く，畑地かんがい施設等の水利施設の整備が進められている。

（９）九州

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約1.4倍であり，北九州ブロックでは全国平均の約 7割と少ないが，逆に南九州ブロックでは全国平均の約2.5倍と多い。都市用水の水源は，北九州ブロックでは河川水への依存率が83.6%と全国平均に比べて高いが，逆に南九州ブロックでは地下水への依存率が41.4%と高い。

ア 生活用水

北九州ブロックでは水道普及率は92.3%とかなり低く，一人一日平均使用量は273ℓ／人・日と北海道に次いで小さい。南九州ブロックでは，水道普及率は91.4%と全国で最も低い水準

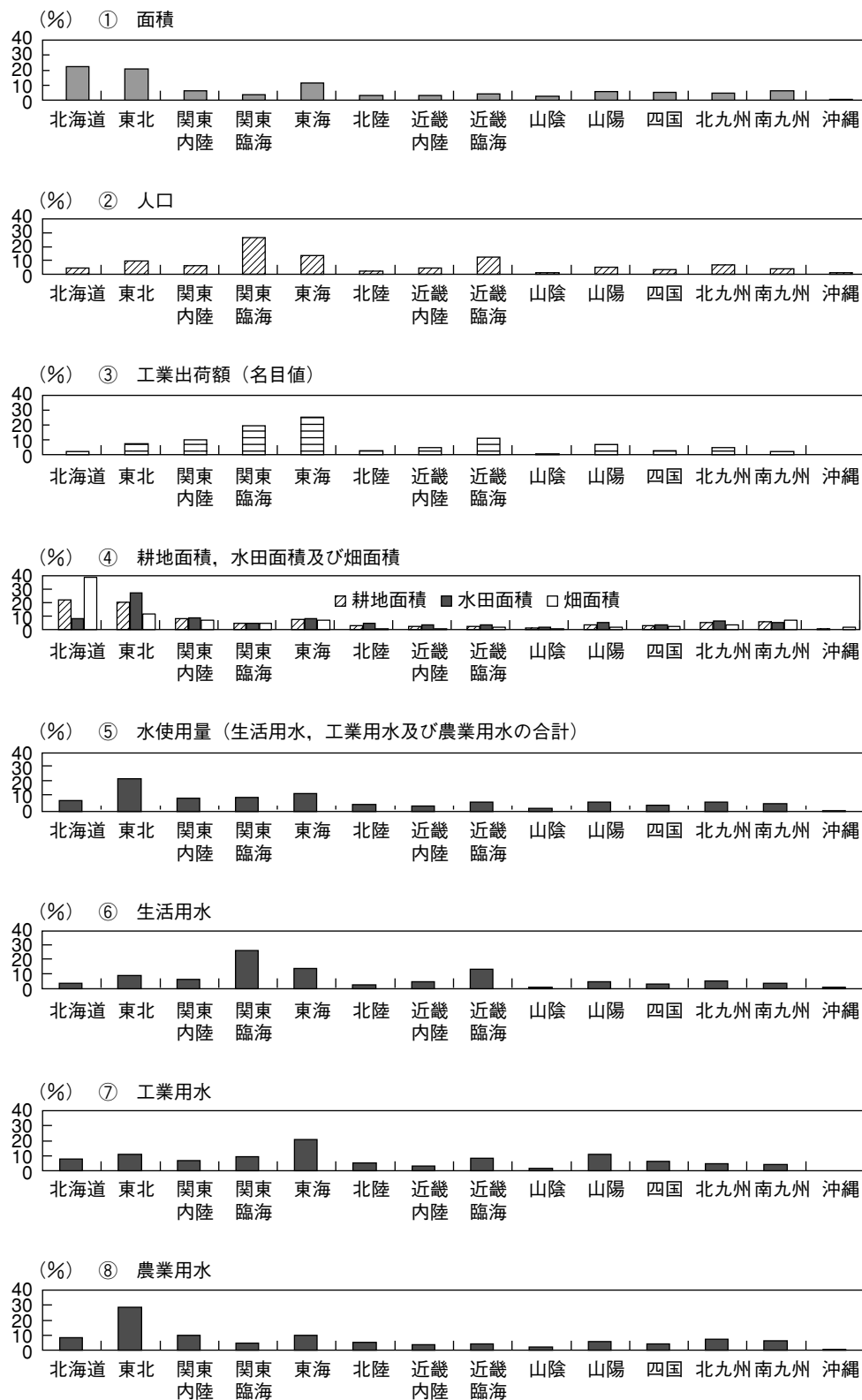
にある。一人一日平均使用量は314ℓ／人・日である。

イ 工業用水

淡水補給量は、北九州ブロックでは化学工業，鉄鋼業の比率が高く，南九州ブロックでは化学工業，パルプ・紙・紙加工品製造業の比率が高い。

ウ 農業用水

南九州ブロックでは畑地の割合が約57%と高く，温暖な気候を生かした農業の展開を図るための畑地かんがい施設等の水利施設整備が進められている。



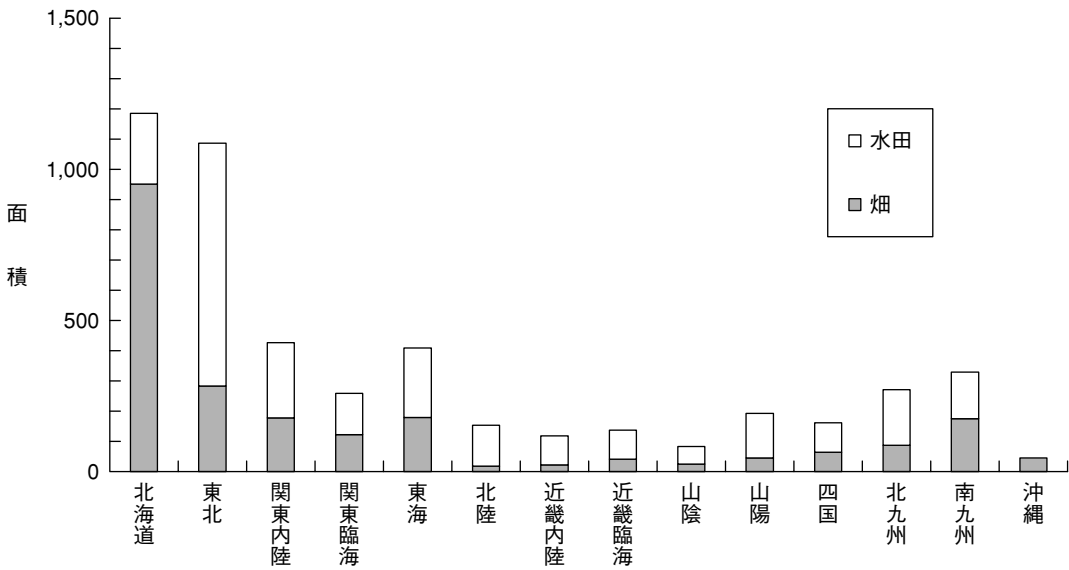
(注) 1. 地域面積は「全国市町村要覧 (平成12年度)」, 人口は「平成12年国勢調査」の値である。
 2. 工業出荷額は経済産業省「工業統計表」(平成13年), 耕地面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」(平成12年)による。
 3. 水使用量は国土交通省水資源部推計による取水量ベースの値で, 平成12年の値である。工業用水は補給水量である。

図 4 - 2 - 1 地域別の主要指標シェア

表 4－2－1 地域別の主要指標

地域名	面 積 (km ²)	人 口 (千人)	工 業 出荷額 (兆円)	耕地面積 (千ha)			水使用量 (取水量ベース, 億m ³ /年)					水資源賦存量 (億m ³ /年)	
				水 田	畑	合 計	生 活 水	工 用	業 水	農 用 業 水	合 計	渇水年 水資源 賦存量	平 均 水資源 賦存量
北 海 道	83,452	5,683	5	234	947	1,181	6.4	10.0	47.5	63.8	402	576	
東 北	79,470	12,293	20	803	279	1,082	14.5	14.2	162.6	191.4	610	855	
関東内陸	23,332	7,903	27	249	173	422	10.4	8.8	56.9	76.1	160	241	
関東臨海	13,555	33,414	53	136	118	254	43.5	12.1	26.2	81.8	87	133	
東 海	42,895	16,990	68	231	174	405	22.8	26.6	54.7	104.1	465	668	
北 陸	12,621	3,131	7	136	13	149	4.1	6.9	28.8	39.7	155	212	
近畿内陸	12,321	5,430	12	95	18	113	7.5	3.8	19.7	31.0	83	130	
近畿臨海	15,009	15,425	30	96	36	132	21.9	10.4	23.1	55.4	112	177	
山 陰	10,214	1,375	2	58	20	78	1.7	1.9	13.0	16.6	81	125	
山 陽	21,699	6,358	18	147	41	188	7.7	14.0	33.2	54.9	121	213	
四 国	18,801	4,154	7	98	59	157	5.6	8.2	24.3	38.1	165	268	
北 九 州	17,839	8,630	13	185	82	267	8.9	5.8	41.2	55.9	106	202	
南 九 州	24,324	4,816	5	154	170	324	5.7	5.6	35.8	47.1	262	409	
沖 縄	2,269	1,318	1	1	40	41	2.0	0.3	1.6	3.9	15	26	
全 国 計	377,803	126,919	269	2,623	2,170	4,793	162.8	128.5	568.4	859.7	2,825	4,235	

- (注) 1. 地域区分については用語の解説を参照。
2. 面積は、「全国市町村要覧（平成12年度）」の値である。
3. 人口は、「平成12年国勢調査」の値である。
4. 耕地面積は、農林水産省「耕地及び作付面積統計」（平成12年）による。
5. 工業出荷額は経済産業省「工業統計表」による平成13年の値である。
6. 水使用量は国土交通省水資源部による推計値で平成12年の値である。工業用水は取水量である。
7. 平均水資源賦存量は、降水量から蒸発散によって失われる水量を引いたものに面積を乗じた値（水資源賦存量）の昭和46年から平成12年までの30年間の平均値である。
8. 渇水年水資源賦存量は、昭和46年から平成12年までの30年間の降水量の少ない方から数えて3番目の年における水資源賦存量である。
9. 四捨五入の関係で合計があわない箇所がある。



- (注) 1. 農林水産省「耕地及び作付面積統計」による。
2. 農林水産省「耕地及び作付面積統計」における 田の面積を水田面積とした。
3. 地域区分については、用語の解説を参照

図 4－2－2 地域別水田畑別面積 (平成13年)

表 4－2－2 地域別の水資源使用率（平成13年）

地 域	水資源賦存量(億m ³ /年)		生活用水	工業用水	農業用水	水使用量 (億m ³ /年)	水資源使用率（％）	
	渇水年	平 均					渇水年	平 均
北 海 道	402	576	6	10	48	64	15.9	11.1
東 北	610	855	15	14	163	191	31.4	22.4
関 東 内 陸	160	241	10	9	57	76	47.6	31.6
関 東 臨 海	87	133	43	12	26	82	94.0	61.5
東 海	465	668	23	27	55	104	22.4	15.6
北 陸	155	212	4	7	29	40	25.6	18.7
近 畿 内 陸	83	130	8	4	20	31	37.3	23.8
近 畿 臨 海	112	177	22	10	23	55	49.5	31.3
山 陰	81	125	2	2	13	17	20.5	13.3
山 陽	121	213	8	14	33	55	45.4	25.8
四 国	165	268	6	8	24	38	23.1	14.2
北 九 州	106	202	9	6	41	56	52.7	27.7
南 九 州	262	409	6	6	36	47	18.0	11.5
沖 縄	15	26	2	0	2	4	25.1	14.9
合 計	2,825	4,235	163	129	568	859	30.4	20.3

1. 水使用量は国土交通省水資源部調べで、生活用水、工業用水、農業用水の合計値である。
2. 水資源使用率は(水使用量)／(水資源賦存量)より算出している。
3. 渇水年水資源賦存量は昭和46年～平成12年の30年間で3番目の少雨年からの算定値を用いている。
4. 平均水資源賦存量は、降水量から蒸発散によって失われる水量を引いたものに面積を乗じた値(水資源賦存量)の昭和46年から平成12年までの30年間の平均値である。

表 4－2－3 地域別の都市用水の水源別取水量（平成13年）

(単位：億m³/年)

	河 川 水		地 下 水		合 計
北海道	15.0	91.6%	1.4	8.4%	16.3
東北	22.6	78.6%	6.1	21.4%	28.7
関東	57.9	77.5%	16.9	22.5%	74.8
関東内陸	10.9	56.6%	8.3	43.4%	19.2
関東臨海	47.1	84.7%	8.5	15.3%	55.6
東海	29.9	60.4%	19.6	39.6%	49.5
北陸	5.0	45.8%	5.9	54.2%	11.0
近畿	34.8	79.9%	8.8	20.1%	43.6
近畿内陸	7.9	69.9%	3.4	30.1%	11.3
近畿内陸	27.0	83.4%	5.4	16.6%	32.3
中国	21.2	83.9%	4.1	16.1%	25.2
山陰	2.3	63.2%	1.3	36.8%	3.6
山陽	18.9	87.3%	2.7	12.7%	21.7
四国	9.2	66.6%	4.6	33.4%	13.8
九州	18.9	72.7%	7.1	27.3%	26.1
北九州	12.3	83.6%	2.4	16.4%	14.7
南九州	6.6	58.6%	4.7	41.4%	11.3
沖縄	2.0	88.8%	0.3	11.2%	2.3
全国	216.6	74.4%	74.7	25.6%	291.3

- (注) 1. 国土交通省水資源部調べによる推定。
2. 百分率表示は地域ごとの合計に対する割合。

(10) 沖縄

一人当たり水資源賦存量は全国平均の約 6 割と少ない。都市用水の水源は、河川水への依存率が88.8%と全国平均に比べて高い。

ア 生活用水

水道普及率は99.9%と全国で最も高く、一人一日平均使用量も358ℓ／人・日と全国で最も大きい。全水使用量に占める生活用水使用量の割合は約 6 割と、全国平均に比べてきわめて大きく、生活用水を中心とする需要構成となっている。

イ 工業用水

淡水補給量は、食料品製造業の比率が高い。

ウ 農業用水

畑地が大きな比率を占めており、畑地かんがいの用水確保を中心に水利施設の建設が行われている。

3 都道府県における長期水需給計画等

都道府県における将来の水需要の見通し、供給の計画など水資源に関する長期計画の策定状況は表4-3-1に示すとおりであり、34都道県で策定されている（表4-3-1）。

表 4－3－1 都道府県レベルの長期水需給計画策定状況

都道府県	現 行 長 期 計 画 名 称	策定年月	目標年次
北 海 道	第3次北海道長期総合計画の一部	平成10年3月	平成19年度
青 森	－青い森の恵みを未来へ－青い森の水計画21	平成10年2月	平成18年
岩 手	新岩手県水需給計画	平成8年3月	平成22年
宮 城	宮城県の水需給計画	平成6年3月	平成17年
秋 田	あきた新ウォータープラン－秋田県長期水需給計画－	平成9年3月	平成22年
山 形	やまがた21世紀ウォータープラン ～山形県水資源総合計画～	平成7年3月	平成22年
福 島	「福島県水資源総合計画」 ～うつくしま水プラン～	平成13年3月	平成32年
茨 城	いばらき水のマスタープラン	平成14年3月	平成32年
栃 木	栃木県総合計画「とちぎ21世紀プラン」の一部	平成13年3月	平成17年度
群 馬	21世紀のプラン群馬県総合計画の一部	平成13年3月	平成22年
千 葉	新世紀ちば5か年計画	平成13年3月	平成17年度
東 京	東京都水道需要予測	平成15年12月	平成25年度
神 奈 川	神奈川力構想・プロジェクト51の一部	平成16年3月	平成27年
新 潟	新潟県ウォータープラン21	平成16年3月	平成32年
富 山	富山県の長期水需給見通し	平成9年9月	平成22年度
石 川	石川県新長期構想の一部	平成8年9月	平成22年
福 井	福井県水資源総合計画	平成10年5月	平成22年
山 梨	山梨県総合水利用計画	平成7年3月	平成15年度
愛 知	「新世紀へ飛躍～愛知2010計画」 第7次愛知県地方計画の一部	平成10年3月	平成22年
三 重	水資源総合利用の基本方向	平成4年3月	平成22年
兵 庫	ひょうご水ビジョン	平成16年5月	平成27年度
奈 良	奈良県長期水需給計画	平成13年2月	平成41年度
和 歌 山	和歌山県長期総合計画	平成10年2月	平成22年
鳥 根	鳥根県長期計画の一部	平成6年3月	平成22年度
岡 山	第3次岡山県水利用基本計画	平成8年4月	平成17年
広 島	広島県長期水需給計画（ひろしま21水プラン）	平成12年11月	平成22年
山 口	やまぐち未来デザイン21の一部	平成10年2月	平成22年度
香 川	第3次香川県長期水需給計画	平成9年5月	平成27年度
高 知	高知県総合計画の一部	平成5年12月	平成12年
福 岡	福岡県水資源総合利用計画（第四次）	平成8年6月	平成22年
佐 賀	佐賀県総合計画の一部	平成12年12月	平成22年度
長 崎	長崎県長期水需給計画	平成9年3月	平成27年度
熊 本	熊本県水資源総合計画－くまもと水プラン21	平成14年3月	平成22年度
鹿 児 島	21世紀新かごしま総合計画の一部	平成13年1月	平成22年

(注) 国土交通省水資源部調べ（平成16年3月末時点）